

跋

第五劇評集をお送りする。

鴻池幸武氏の文樂の批評は、氏の本領を發揮したもので、「若し將來こんなもの許り残るとしたら、保存しない方がましである」とは文樂を愛するものの悲痛な叫びであらう。當事者はよく三省して貰ひ度い。

累について、日頃考へてゐる事を記してをいた。御批評を願ふ。他は大した事もなささうである。

我國劇壇の現状は再録である。詳しくは本文の末尾の附記を御覽ありたい。

神聖家族、氷解期前の二新劇評、思ふやうに書けなくて——いさゝか暑さで茹つて——申譯がない。緑波は御添物程度である。

扉の寫眞は畏友坂輔男君から頂いた。
第六劇評集を八月中旬に出す豫定である。

武智鐵二第一詩集

こほたれ

近日出版

詩 約三十篇

歌 約六十首 掲載

百部限定 菊判

定價約參圓の見込

御希望の方は葉書にて
豫約申込せられたし。

發行所 劇評刊行會